

江戸を続く伝統の職人技

線香花火

市川神明牡丹

市川三郷町ふるさとの輝き

山梨県市川三郷町

平安時代から続く「市川和紙」

江戸時代より続く「市川花火」の町

町民技で始まった打上花火は、「神明の花火」として毎年、八月七日に開催されています

昭和の初期は、打上花火と共に、がん具花火の製造も盛んで町内、約三百軒の内職で生産をしていました 主流は朝顔花火でしたが線香花火についても記録がありました

市川三郷町の文化を線香花火に託したいと市川線香花火プロジェクトを立ち上げ地元伝統文化を集結し、完成したのが

線香花火『市川神明牡丹』

ふるさとの輝き

一二〇〇年の歴史を持つ市川和紙、町内唯一の手すき工房の楮和紙を撚り紙として使用し、市川團十郎の記念碑の立つ三珠歌舞伎文化公園に咲く牡丹の花びらをイメージしました

市川神明牡丹が、ふるさとの輝きとしてまぶしい光を放つように、進化させていきます誕生したばかりの『市川神明牡丹』をお楽しみください

神明の花火倶楽部



市川神明牡丹 (十本入)

販売価格 八七〇円 (税抜)

歌舞伎公園に咲く牡丹の花びらで染色



市川神明牡丹 (三十本桐箱入)

販売価格 三〇〇〇円 (税抜)

市川和紙で牡丹の花びらをイメージ

